

(参考) 有志会合 (非公式ブレスト) における主な意見

令和3年7月27日及び7月30日に、戦略方針の方向性を検討するため、有志による会合を実施した。その際、次の3つのテーマを設定して、議論を行った。

- ① (もしも人的・財的に問題なければ) デジタルアーカイブで (誰に) 何がしたいか / 何を実現するか
- ② ジャパンサーチは10年後どうなっているか
- ③ 自分 (たち) はジャパンサーチの発展のために (誰に) 何ができるか

主な意見は以下のとおり。

【デジタルアーカイブで実現したいこと】

- デジタルアーカイブが日常的に使われる状況を目指すべき。
- 学びの場で活用されることが重要。子どもたちがアーカイブされた素材でコンテンツ作りができるようになるとよい。
- これまででは想像できない展覧会の開催や、死蔵作品を世に出すデジタルミュージアムの確立ができるとよい。
- 遊びの場でもジャパンサーチが使われるよう、輪を広げていけるとよい。
- ゲームや仮想空間といった外に出ていく取組も必要。
- YouTuber ならぬ、JapanSearcher になりたい職業ランキングに入っているとよい。
- いかに関心の生活に入っていくか、その観点から学びも遊びも重要。コモディティ化には、小中高の発達段階に応じたジャパンサーチとの関わりを考えていく必要がある。
- 学校教育にとどまらず、生涯教育にも使えるようになっていけるとよい。
- 衰退する地域の機関をデジタルアーカイブを通じて救うことが大事。それが文化の核となる。
- デジタルアーカイブは、現在・未来の人のためにある。デジタルに無関係なフィジカルなコミュニティをデジタルに繋がるには「場」が必要。
- 文化の記録・記憶を未来に繋ぐのは我々の役目。集めることで、学び・知る・考えるをオールジャンルで関連付けながら支えるインフラを作ることができる。

【戦略方針に盛り込む内容】

- 日常化＝コモディティが重要なポイント。
- システムのことだけでなく、人にも配慮された内容にしてほしい。

- ジャパンサーチにとどまらず、デジタルアーカイブがどのように社会に貢献していくのかも示したい。
- 自ら参画する、楽しむ方向に舵をきっていくのがよい。「教育」の幅をもう少し広げて、自ら学ぶ、体験するといったワードがあるとよい。
- 支える内容を盛り込むことが重要。支えてもらった経験を持つ人が10年後エバンジェリストになっていくことが理想。
- 長期保存といった基盤的なテーマから教育活用までレイヤーがさまざまある。それらを整備して進めていくことが必要。
- レイヤーを限定せず、誰をも支援する、ということを打ち出せるとよい。
- デジタルアーカイブは社会を変えることを言いきるのがよい。デジタル空間を変えて、社会を変えるのがデジタルアーカイブ。
- 「未来の時は過去の時ののなかに」エリック・ケテラールのような、過去と未来を繋ぐ言葉を掲げられるとよい。
- 次世代に向けた発信を行いたい。